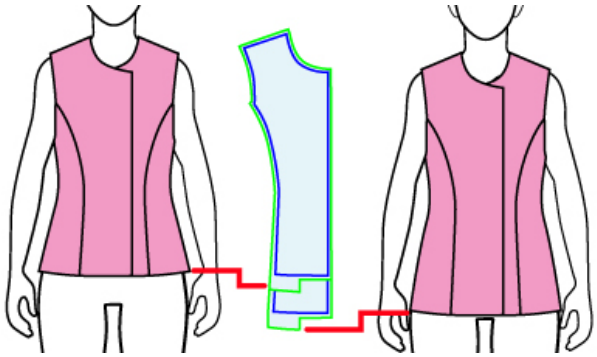
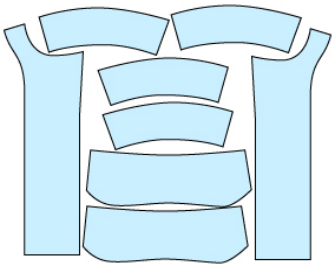
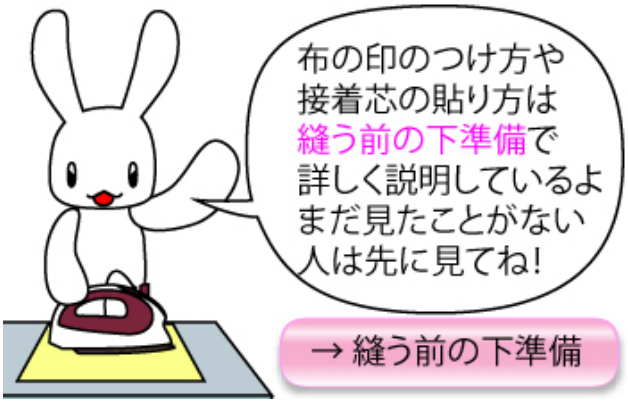
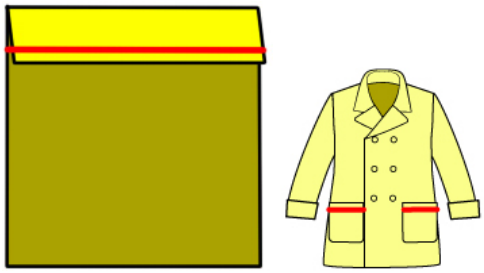
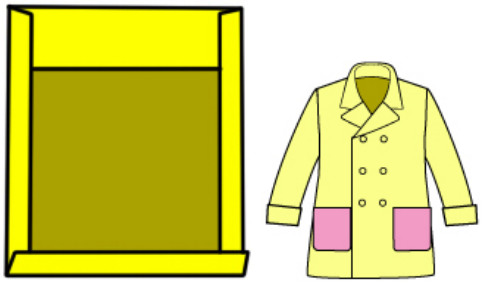
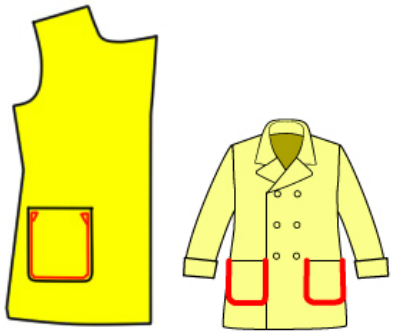
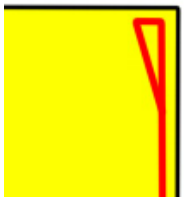
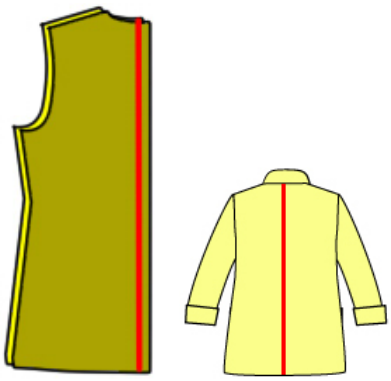
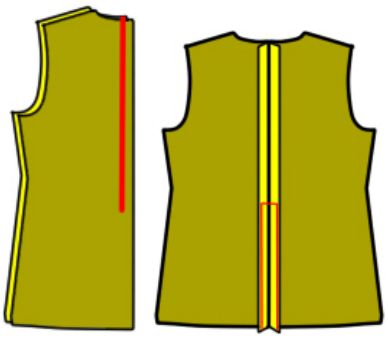
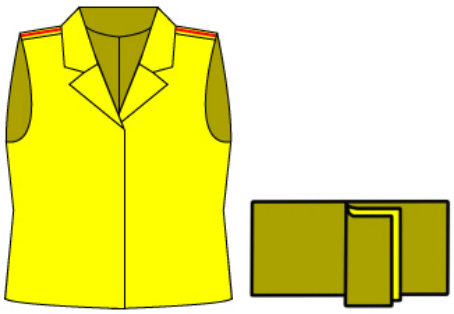
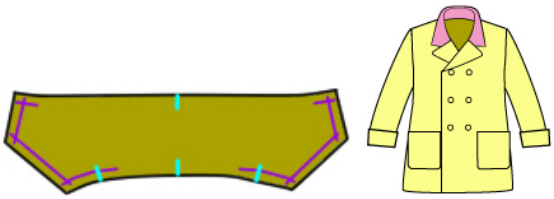
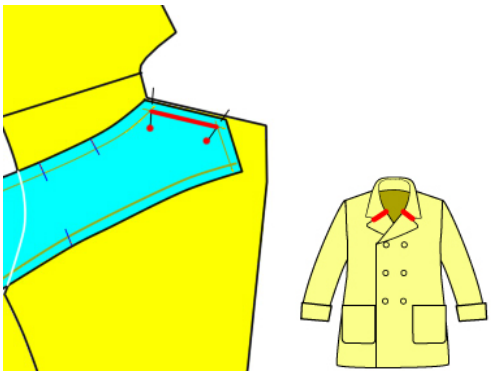
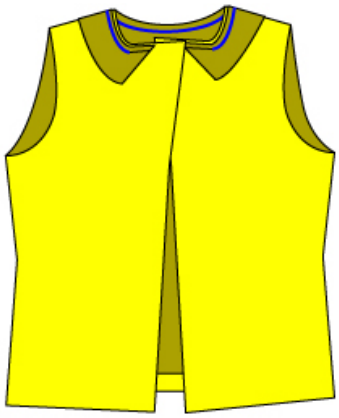
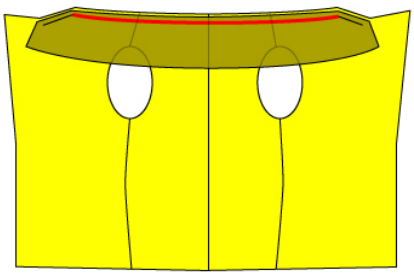
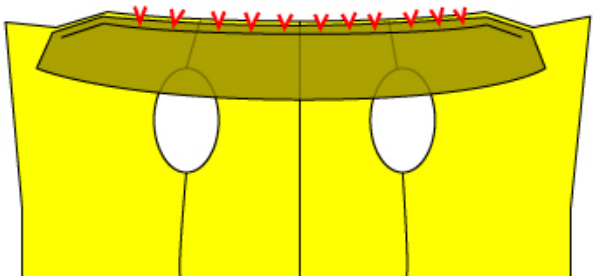
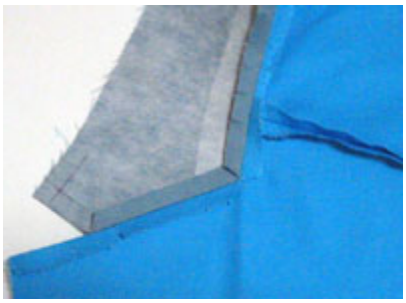
	型紙のすその複数の線について 選ぶすそによって丈の長さを変えることが出来ます。 実際に型紙を体にあてて鏡などで確認して作りたい長さを決めてください
	型紙に指定された場所の裏に接着芯を貼ってください。
	裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。 お洋服に模様や刺繍を入れたい場合はこの時点で入れておくと楽です。
	■表　■裏 ポケットを作ってください。 アイロンで上の縫い代を裏側に2cm折ってください。 1.5cmの所を縫ってください。
	アイロンで下と左右の縫い代を裏側に1cm幅で折ってください。

	角 表側を上にした身頃(胴体部分)の上に、表を上にしたポケットを重ねてください。  ポケット口は力がかかりやすいのでポケットの上側を図のように横に2～3度返し縫いをして斜めに縫い戻るという縫い方をしておくと、丈夫になります。
	後身頃(胴体)を表側同士が内側になるように重ねて1cm幅で縫ってください。
	 後身頃(胴体)を表側同士が内側になるように重ねてください。 スリットの手前まで1cm幅で縫ってください。 縫い代を左右に広げて端から5～7mmのところを縫ってください。
	前後の身頃(胴体)を表同士が内側になるように重ねてください。 端から1cmのところを縫ってください。
	肩の縫い代は後身頃側に折ってください。 肩と脇の縫い代が動かないよう表から、縫い目の0.2cm後身頃側を縫ってください。

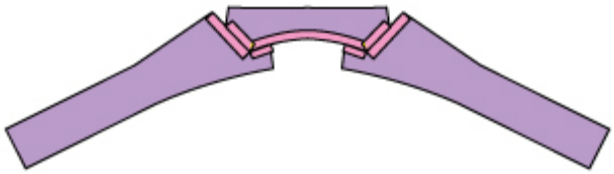
	えりの裏側に点を結ぶようにイラストの紫の線のように線を入れてください。 位置合わせの印として後中心と、肩に当たる部分（水色の線）に5～8mmの切り込みを忘れずに入れてください。
	見返しのラペル（胸の折り返した部分）と衿の境の部分の切り込みの位置とえりの印ががあうように、真上からまっすぐ針を刺し、固定してください。 （型紙に書かれた同じ記号を合わせる） 縫い始めは手動で、丁度交点に針が落ちるようにミシン針をおろして縫ってください。 縫い終わりも縫いすぎないよう注意して、スピードを落とすか、手動でぴったり交点まで縫ってください。 印より縫いすぎると引きつったりシワが入ったりします
	 首の横から後ろを端から5～7mmのところをしつけ糸で縫ってください。
	 ミシンで端から1cmのところを縫ってください。 出来るだけズレたりしないように角がきちっと合わせてください。 これが重なったりずれたりすると表から見たとき引きつったように見えたりします。
	余分な生地を縫いこんだりしないように、生地をよけて縫うと綺麗に縫えます。



カーブの所は引きつったりゴロゴロしやすいので、縫い代に浅く切込みをいくつか入れておくと仕上がりが良くなります。

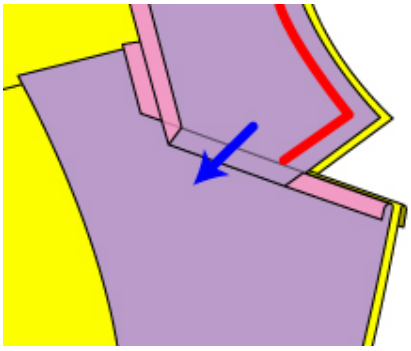


アイロンでえりの縫い代を左右に折ってください。

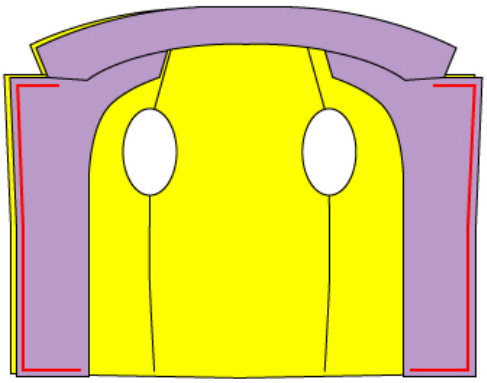


見返しにも同様にえりをつけてください。
※見返しは前だけです。

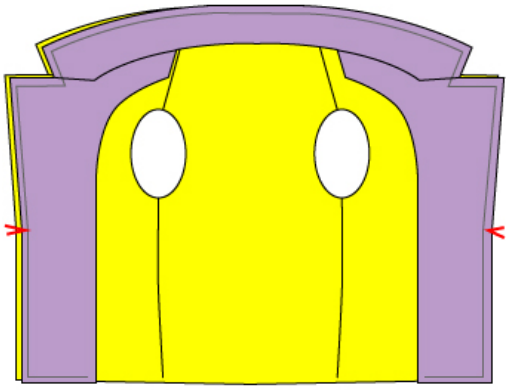
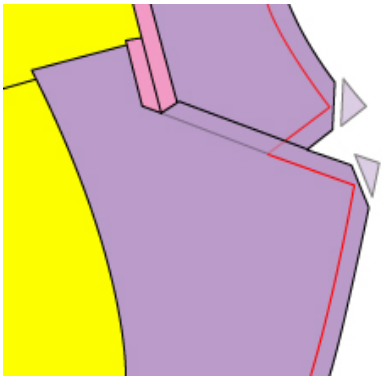
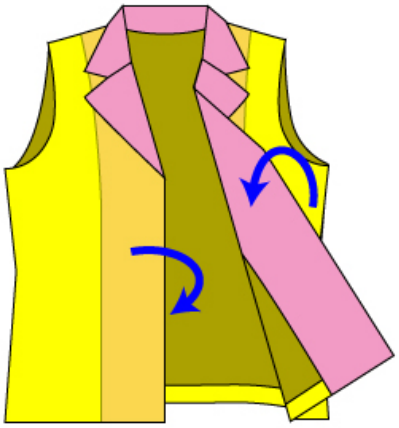
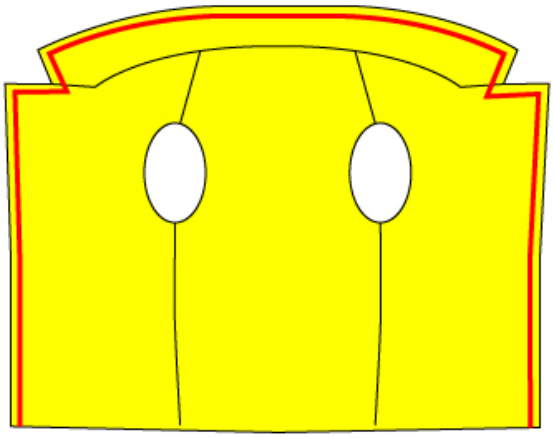
前身頃と見返しとえりを表側同士が内側になるように重ねてください。



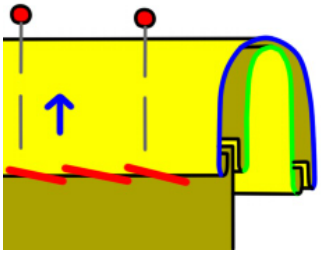
えりの縫い代を縫い込まないようによけてください
えりの両端を、2枚合わせて1cm幅で縫ってください。



前中心を1cm幅で縫ってください。

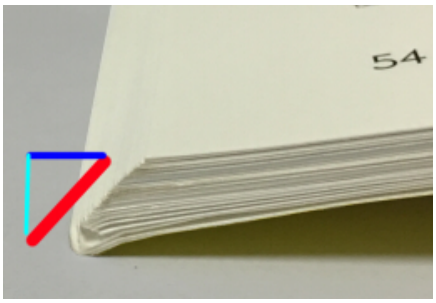
	表替えした時、角が引きつりますので、図の赤い部分に縫い糸を切らない程度切込みを入れてください
	表がえす時に先が厚くならないように、縫い目から2mm離れた角を切り落としてください。
	見返しを裏へひっくり返してください。
	端から5mmのところをミシンで縫ってください。 柔らかい雰囲気にしたい場合はアイロンで形をととのえてください。

アイロンですその縫い代2ｃｍ裏へ折ってください。
1.5ｃｍのところを縫ってください。



浮いたえりを固定してください。
このときえりを半分折るため、厚み分表に見えるえりと、裏に隠れるえりの長さが変わってきます。

たとえると本を閉じた状態だと端はまっすぐですよね.

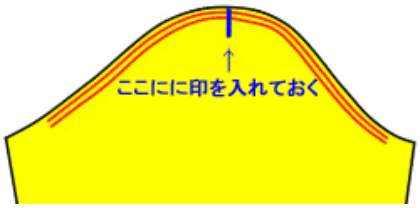


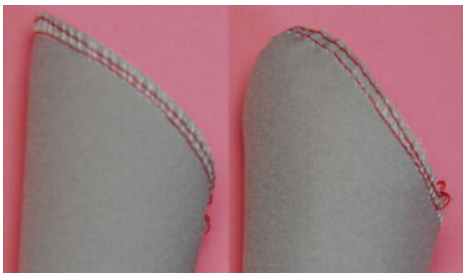
本を広げると端がずれて斜めになるでしょう？
同じようにえりも曲げるとずれるので
型紙通りにえりの縫い代を中に折って縫うと引きつってしまうのです。
なので、自然なカーブになるように出来上がり通りにえりを折った状態で待ち針で固定します。
そして手縫いでえりと見返しを固定してください

この時点でボタンホールを開けると、そでが無い分縫いやすいです。
ボタンの付け方はミシンによって異なりますのでミシンの説明書をご覧ください。

上側になる前身頃の中心側だけボタンホールを開け(赤)脇側に飾りのボタンをつけてください(緑)
反対の前身頃の脇側にボタンをつける(青)中央側にスナップボタンをつけてください。(水色)

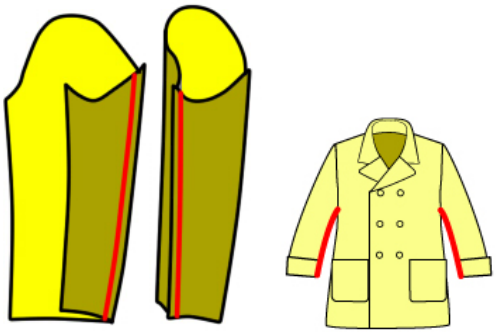
服の右前、左前について
人間の体は多少差はありますが左右対称なので型紙も左右対称に作ってあります
なので前の重なりをかえるのはボタンと穴を逆にすればどちらも作れますよ～



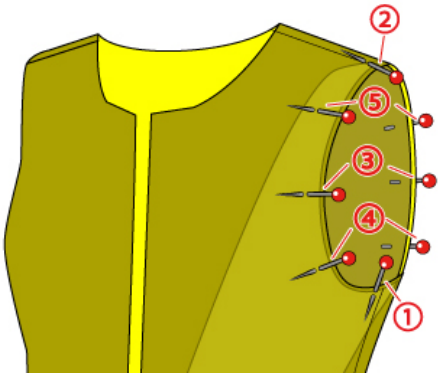


そで山にはそでを立体にする為に余裕が入れられています。
ギャザーを寄せておかなければ、そのままつけるとあまってしまう筈です。またそで山の高い細身のそではそのままつけると左の写真のように体に添わない形になるので、そでぐりより長くし、ギャザーを入れることによって丸みを出して立体的になるように作られているものもあります

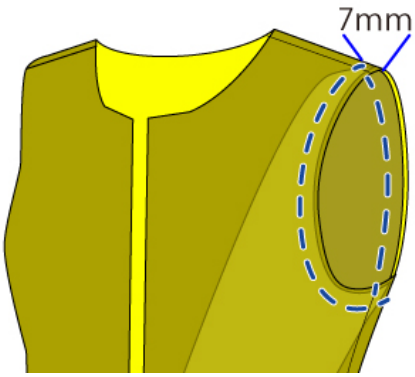
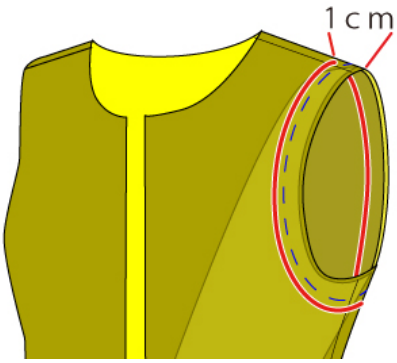
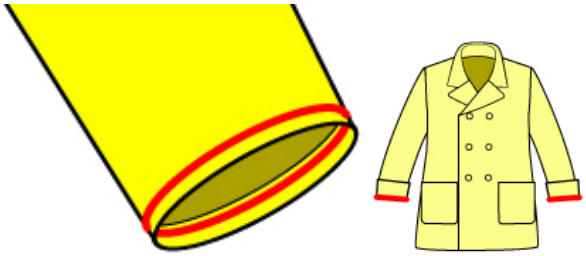
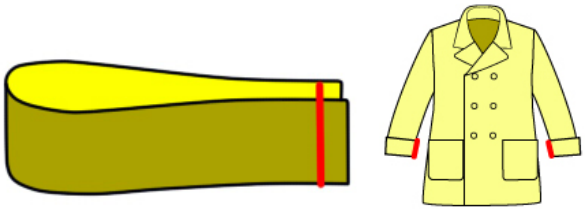
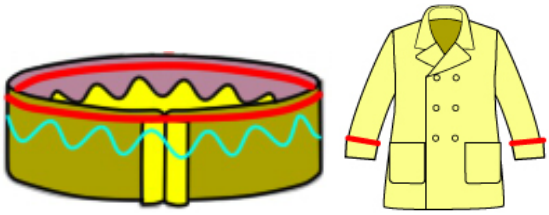
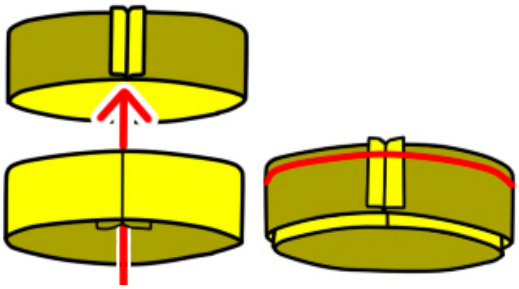
こうやって比較を見ると、ギャザーを入れる意味が分かっていただけると思います。

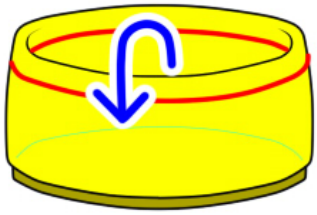
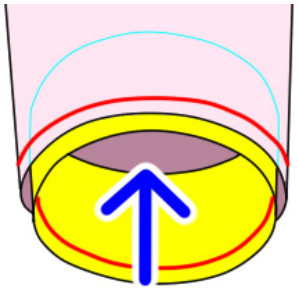
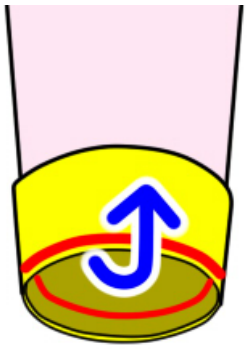


ミシンの上の糸調整を元に戻してください。
2枚のそでを表側が内側になるように重ねて両脇を1cm幅で縫ってください。
同じように裏地も縫ってください。
アイロンでそで口を出来上がり線で折ってください。



そでは表側が見えるようにひっくり返してください。
裏返したままの身頃の中にそでを入れてください。
脇→肩→印という順に待ち針を刺してください。
そでの山のギャザーの糸を引っ張って長さを調整してください

	手縫いで端から7mmくらいのところを縫ってください 縫ったら待ち針ははずしてください。 全部を手縫いで作る場合はここは省略してください
	端から1cmの所を縫ってください。 縫い終わったら仕付け糸ははずしてください
	袖口にカフスを付けない場合 試着してそでの長さを確認してください。 問題がない場合、アイロンでそで口を2cm裏へ折って下さい。 1．5cmのところを縫ってください。 袖の丈の調整は中に折る縫い代の幅を増減して調整してください
	表が内側になるように二つ折りして両端を合わせてください。 端から1cmのところを縫ってください。 縫い代を左右に折ってください。
	間にフリルをはさみたい時は同じようにレースやフリルもわっかにする。 表に見える方のカフスのフリルを付けたい側に、裏を上にしてフリル等を重ねてください。 端から0.5cmの所を縫ってください。
	内側同士が表になるように2枚のカフスを重ねてください。 上側を1cm幅で縫ってください。

	カフスを表替えして、折り返した側の端から0.5cmの所を縫ってください。
	表面が表になるように、そのまま袖の中にカフスを入れてください。 袖口とカフスの口を縫い合わせてください
	カフスを袖の中から引っ張り出し表側にかえしてください。 袖口をカフスが戻らないように端から0.5cm～1cmくらいのところを縫ってください。

いるもの

☐ 表生地
☐ ボタン （作りたいデザインの数+1～2個多く買っておくと取れてなくなったときに困りません）
☐ 生地に合った色の糸
☐ 接着芯
☐ 直径1～1.2cm程度のスナップボタン （飾りボタンにするか否かでかわります）

このデザインにあった生地

・ウール フラノ
表面が少し毛羽立った厚手の毛織物。
厚いので芯を貼らなくてもしっかりした仕上がりになります。
本格的な防寒着（のコスプレとしても）として作りたい場合オススメです。
サンプルの写真はコレです。

ポリエステルツイル
化繊なので綿ツイルに比べて軽いです。
し わになりにくいです。
コスプレなどでカッチリしたコートにしたい場合はこちら。
シワになりにくいですが、アイロンを使えばしっかり折り目がつけられます
ツイルというのは織りの名称なので、繊維の太さや密度、加工によって質感が異なるので、同じ商品名でもお店によって異なります。

ネットで買う場合取り寄せが出来る場合は早めにサンプルを取り寄せて確認するといいと思います。

接着芯
薄地に厚地の芯を貼ると接着剤が多すぎてしみになったりするので、生地の厚さに応じた芯を選んでください。
貼ることで張りを出し、しわになりにくくなります。